

神河町歴史文化基本構想



マスコットキャラクター カーミン

平成30年7月27日



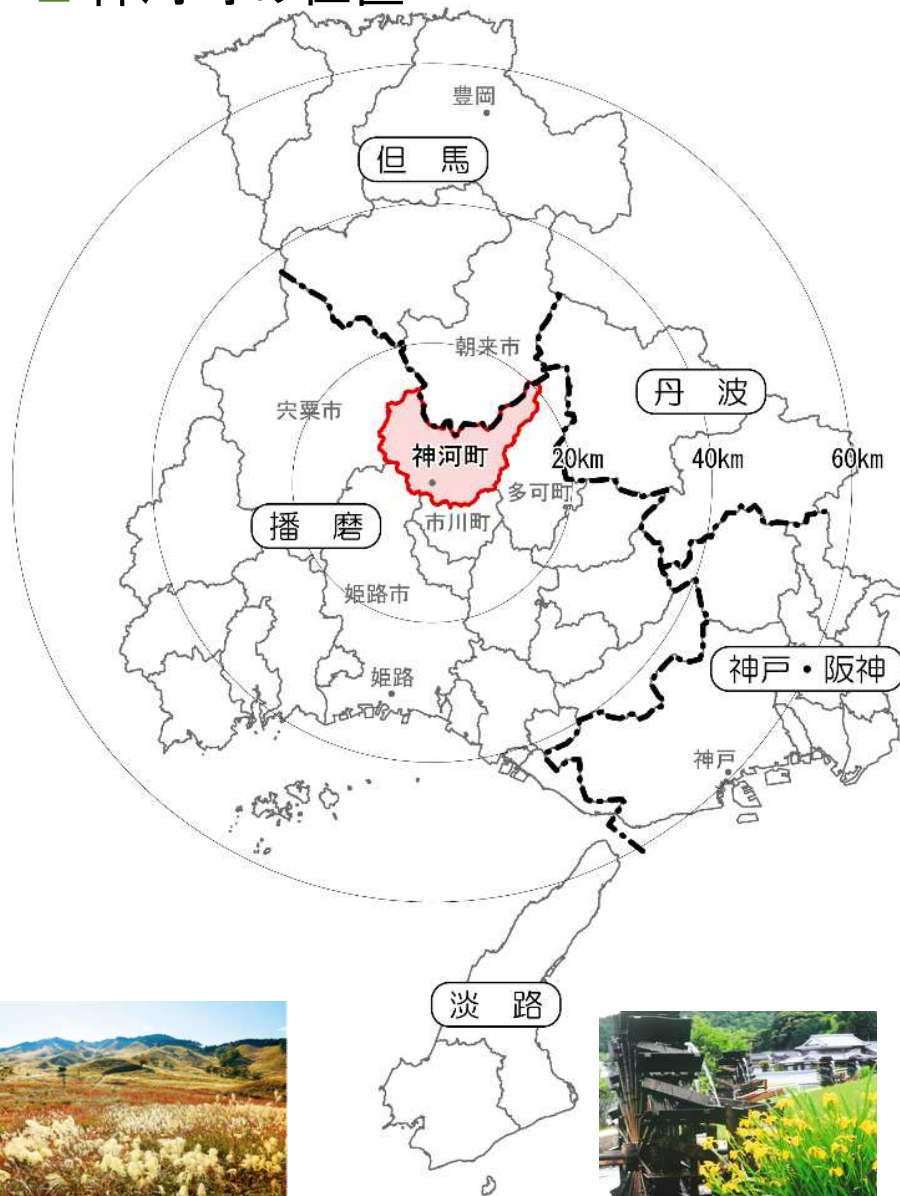
JAPAN HERITAGE
日本遺産



兵庫県神河町教育委員会
竹国よしみ

神河町の概要

■ 神河町の位置



- 兵庫県の真ん中に位置するハート型のまち。(面積202.3km² 人口11,539人)
- 播磨と但馬を結ぶ交通の要衝。
- 町域の9割弱を山林・原野(草原)が占め、かつての林業の隆盛を支えた。
- 山々の間を縫うように市川水系の各河川(市川・犬見川・小田原川・猪篠川・越知川)が南流し、河川沿いの低地に集落・市街地が形成され、農業が営まれている。



■ 神河町の指定等文化財

分類		国	県		町	総数
		登録	指定・登録		指定	
有形文化財	建造物	1	6	1	15	23
	美術工芸品		1		11	12
無形文化財						0
民俗文化財	有形民俗文化財		1		4	5
	無形民俗文化財				5	5
記念物	史跡		1		2	3
	名勝		1			1
	天然記念物		1		3	4
文化的景観						0
伝統的建造物群						0
選定保存技術						0
総数		1	11	1	41	53



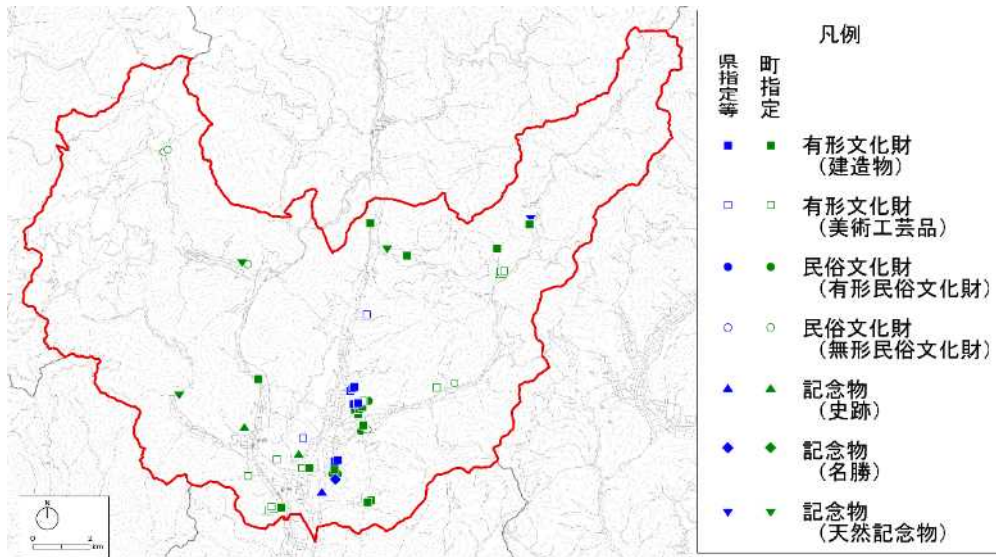
徹心寺本堂(福本区)



春日神社拝殿(吉富区)



羽柴秀吉制札(柏尾区)



根宇野 獅子舞(根宇野区)



川上 花だんご(川上区)



福本遺跡(福本区)



旧福本藩池田家陣屋庭園(福本区)

2

策定の経緯

基本構想策定の目的

神河町における歴史文化を活かしたまちづくりは、これまでの取り組みの成果をもとに歴史文化を神河町のまちづくりの基盤としてしっかりと位置付け、高まってきた町民の思いを受け止めながら、多くの人々に「訪れたい」と思われる環境づくり、また、地域への誇りや愛着を育むことによる「住みたい」「住み続けたい」と思われる魅力的な居住環境づくりへと発展させていく第二段階に入っているといえる。

そして、現在、進展してきた歴史文化を活かしたまちづくりをより一層効果的に進め、地域づくりへと発展していくためには、町民をはじめ、専門家や行政、さらには出身者や来訪者等を含めた関係する多様な主体が協働して取り組みを展開するための目標や方針の共有を図ること、また、取り組みを後押しする仕組みを整えていくことが求められている。



歴史文化を活かしたまちづくりのためのマスタープランとなる「神河町歴史文化基本構想」を策定することにより、神河町の歴史文化の魅力を高め、
生き活きとした地域づくりへと展開していく

歴史文化を活かしたまちづくりに向けた様々な取組の展開

歴史文化の調査に係る取組



福本遺跡の調査



城山古墳群の調査成果を踏まえた見学会

担い手育成や意識啓発・学習に係る取組



講演会・シンポジウム
学習講座等の開催



かみかわ百選などによる
情報発信



アユ給食や稚アユ放流などの学校教育との連携

歴史文化の保存に係る取組



中村・栗賀町の歴史的景観形成地区指定による歴史的な町並みの保全



空き家・空き土地活用の推進



技術指導
(かみかわ木造インターンシップによるバス停づくり)

歴史文化の活用に係る取組



イベント開催(福本遺跡まつりなど)



観光ガイド



ロケ地活用



特産品づくり

区単位のまちづくりの展開 ～ 町民意識の高まり ～

- 一部合併や分割などで再編されながらも、近世村落の単位が現在の地縁組織へと受け継がれている。



**平成18年度
「地域サロン事業」の実施
…670件の「地域の宝もの」を把握**



- 区ごとの「地域誌づくり」や「ふれあい喫茶」等の取組への展開
- 区相互が連携した協議会等の設立・ふるさと自立計画の策定への展開 など

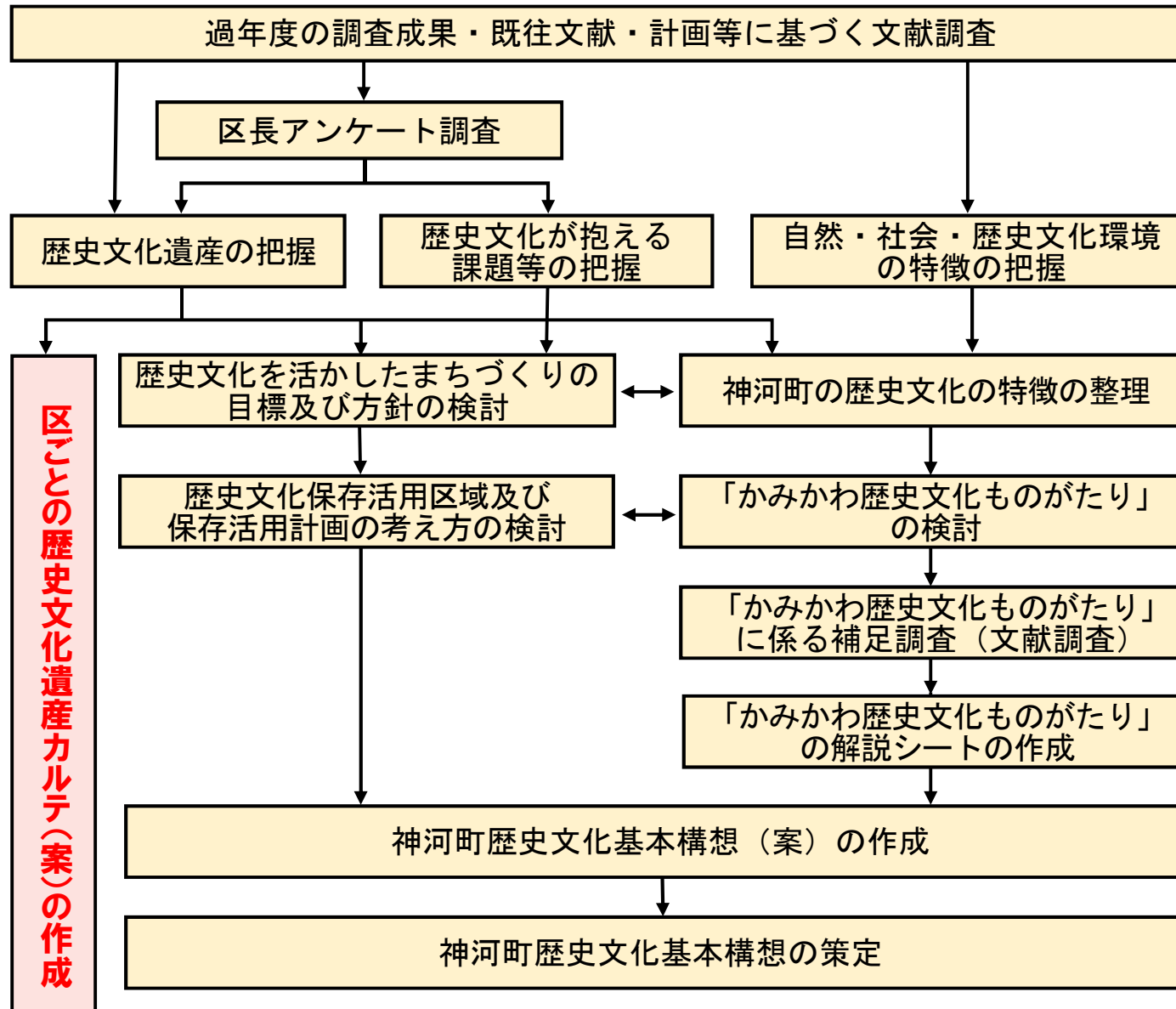


■ 近世村落と現在の区

近世	平成27年現在の区
福田新田村	新田区
作畑村	作畑区
大畑村	大畑区
越知村	越知区
岩屋村	岩屋区
根宇野村	根宇野区
山田村	山田区
中村	中村区
栗賀町村	栗賀町区
福本村	福本区
貝野村	貝野区
寺野村	寺野区
柏尾村	柏尾区
加納村	加納区
東柏尾村	東柏尾区
上吉富村	吉富区
下吉富村	吉富区
大山下村	杉区
大山中村	大山区
猪篠村	猪篠区

近世	平成27年現在の区
新野村	新野区
野村	野村区
比延村	比延区
寺前村	寺前区
鍛冶屋村	鍛冶区
岡村	
用田村	大河区
福井新田村	
上岩村	上岩区
高朝田村	高朝田区
宮野村	宮野区
小田原村	南小田区 上小田区
川上村	川上区
犬見村	大川原区 本村区 赤田区 重行区
為信村	為信区 峠区
栗村	栗区
湊村	湊区

基本構想策定の流れ



区としての歴史文化遺産カルテ(案)の作成

3

基本構想の概要

目標と方針

方針

基本方針1 「わがまちの宝もの」を輝かす基盤づくり

具体方針1-1

「わがまちの宝もの」
のほりおこし

具体方針1-2

「わがまちの宝もの」
を輝かすひとづくり

具体方針1-3

「わがまちの宝もの」
を輝かすしくみづくり

基本方針2 「わがまちの宝もの」を守り、育み、活かす

具体方針2-1

「神河町を特色づける歴史文化遺産」
を守り、育み、活かす

具体方針2-2

「地域を特色づける歴史文化遺産」
を守り、育み、活かす

具体方針2-3

歴史文化遺産のつながりがつくるものがたり
を守り、育み、活かす

目標

「わがまちの宝もの」を輝かす

「かみかわ歴史文化ものがたり」を守り、育み、活かす

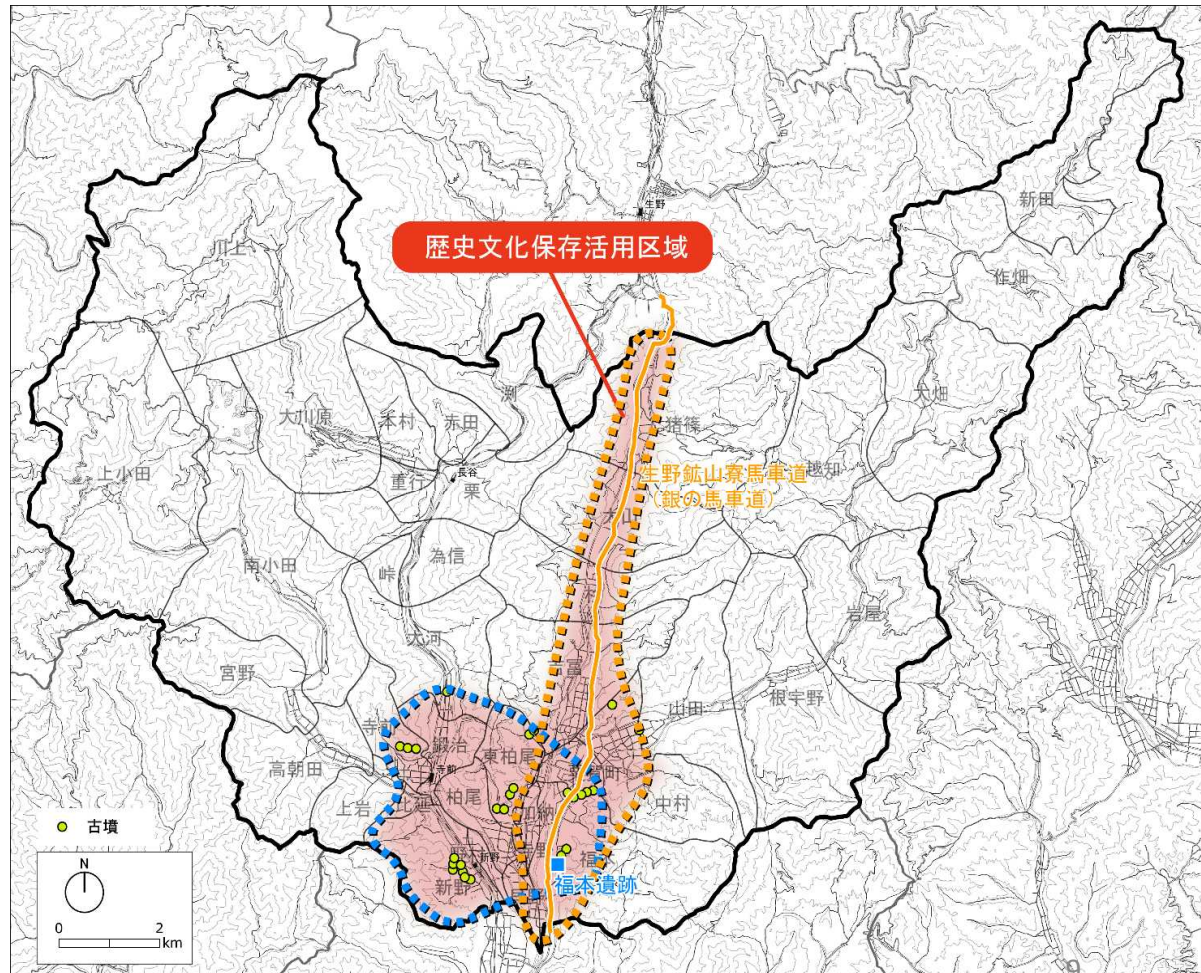
4

保存活用に向けて (平成28年度)

歴史文化保存活用区域と保存活用計画

「日本遺産」の認定に向けた取り組みを進めていた生野鉱山寮馬車道（銀の馬車道）と整備に向けた検討を進めてきた福本遺跡を保存活用計画の核となる歴史文化遺産とし、生野鉱山寮馬車道の沿線区域と福本遺跡に関連する遺跡群を有する区域を歴史文化保存活用区域として、保存活用計画を作成した。

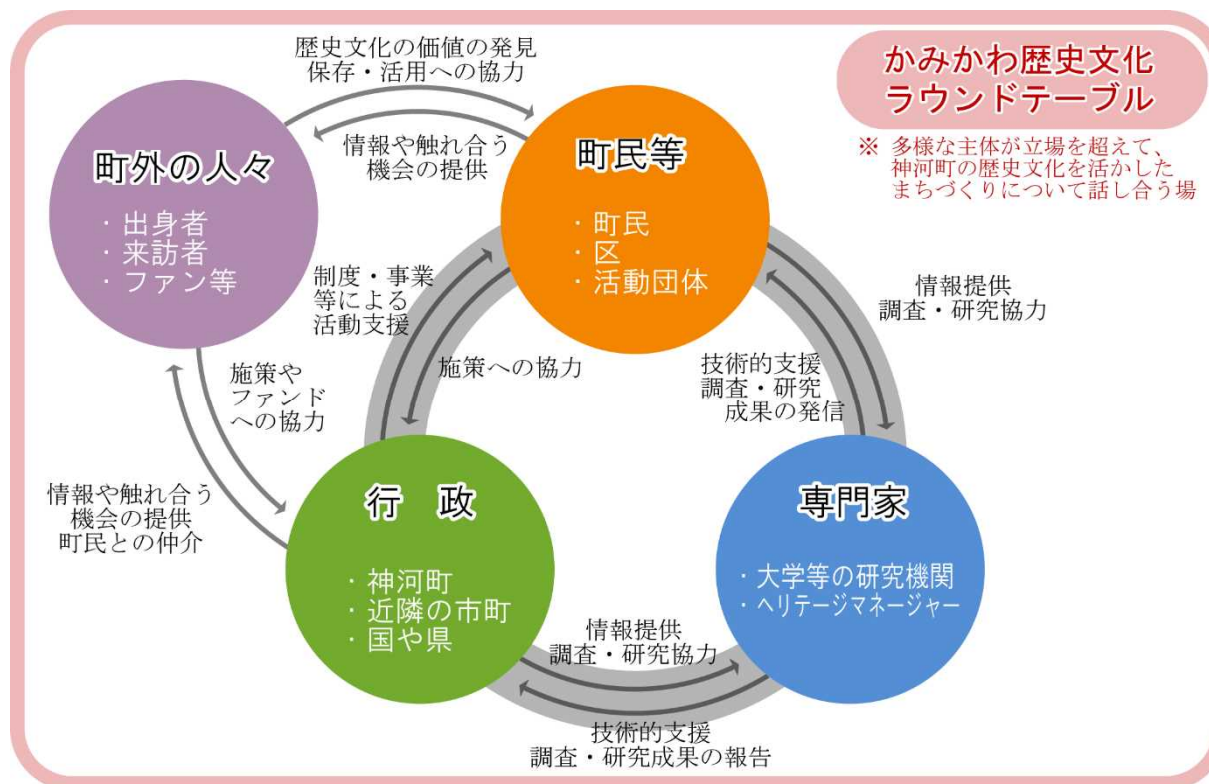
■ 歴史文化保存活用区域(案)



今後の課題と展望

連携体制の整備

- 市内での連携
- 町民との連携
- 行政の支援
- 大学・専門家との連携
など



課題

- 日本遺産「播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道」の認定をめざした関係市町や関係団体との連携強化（調査や適切な保存措置の検討・実施）
- 歴史文化遺産を観光に活用するには→地域住民が再認識するための勉強会
- 保存活用する歴史文化遺産の価値を下げることなく魅力を引き出すには？
- 個々の歴史文化遺産ではなく周辺環境と一体的に捉え、町での滞在時間を延ばす

歴史文化基本構想を活用した観光拠点事業

■ 神河の魅力発信歴史ウォーク



■ 馬車道沿道観光拠点推進保存整備事業

